

	月		火		水		木		金		
	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	
総合診療	内科予約2診	[内科] (糖尿) 岸本 祥平		[内科] (循環器) 水越 正人		[内科] (肝臓) 佐藤 博明		[内科] (糖尿) 岸本 祥平		[内科] 栗栖 清悟	
	内科予約3診	[内科] (糖尿) 応援医師		[内科] (糖尿) 岸本 祥平		[内科] (糖尿) 栗栖 清悟					
	内科予約4診			[内科] (呼吸器) 上谷 光作		[内科] (循環器) 山本 勝廣				[内科] (循環器) 小林 克暢	
	内科新患5診	[内科] 白井 聖一		[内科] 栗栖 清悟		[内科] 岸本 祥平		[内科] 徳留 なほみ		[内科] 上谷 光作	
	外科診	[外科] 櫻井 照久		[外科] 櫻井 照久		[外科] 鈴間 孝臣 [第2週] [外科] 佐々木 恵里 [不定期]		[外科] 櫻井 照久 (不定期)			
脊椎ケアセンター	第6診察室	[脳神経外科] 大岩 美嗣		[神経内科] 中西 一郎		[脳神経外科] 大岩 美嗣		[脳神経外科] 大岩 美嗣		[脳神経外科] 上野 雅巳 (第1週) 大岩 美嗣	
	第7診察室	[センター長] 川上 守		[センター長] 川上 守						[センター長] 川上 守	
	第8診察室	[整形外科] 籠谷 良平		[整形外科] 寺口 真年		[整形外科] 寺口 真年		[整形外科] 籠谷 良平		[整形外科] 籠谷 良平	
	リハビリテーション科	隅谷 政		隅谷 政		隅谷 政		隅谷 政		隅谷 政	
眼科	泉谷 愛	溝口 晋	宮本 武	溝口 晋	泉谷 愛	こども外来 (斜視も診えます)	溝口 晋	黄斑外来	宮本 武	術前外来	
小児科	戸川 寛子	予防接種	樋口 隆造		戸川 寛子	予防接種	樋口 隆造		戸川 寛子		

2018年1月1日現在

※担当医が変更になることがありますので、事前にお問い合わせください。

※各種専門外来(フットケア、緩和ケア、脊椎ケア、認知症ケア、感染対策)を実施していますので、関心のある方は一度ご相談ください。

## 初めて外来診察を受ける方へ

当院では、少しでもお待ちいただく時間を短縮するため、外来診察は原則予約制とさせていただきます。

### ◆医療機関からのご予約

- ①「予約申込書(様式PDF)」(ホームページに掲載)を地域医療連携室にFAX送信してください。
- ②予約時間、医師名を記載した予約票をFAXで送信します。
- ③患者さんに予約票と紹介状をお渡しください。
- ④予約当日は予約票・紹介状・診察券(受診歴のある方)・保険証を持って総合受付で受付をしてください。  
地域医療連携室 受付時間(平日:月~金曜日、祝年末年始除く)  
FAX0736-22-8275 9:00~17:00

### ◆ご本人からのご予約

- ◆紹介状をお持ちの方  
地域医療連携室で予約をお取りします。  
TEL: 0736-22-8250 8:45~17:30 (平日:月~金曜日、祝年末年始除く)
- ◆紹介状をお持ちでない方  
予約センターで予約をお取りします。  
TEL: 0736-22-4600 8:45~15:00 (平日:月~金曜日、祝年末年始除く)



## 【お知らせ】

- ・平成29年12月末で内科の田中寛人講師と山根木美香学内助教が退職し、中西一郎助教と岩下裕学内助教は和歌山県立医科大学本院勤務になりました。
- ・平成30年1月より内科に白井聖一助教と徳留なほみ助教が着任しました。
- ・次回の紀北分院通信「あじさい」春号は4月です。

## 和歌山県立医科大学附属病院紀北分院 分院長 川上 守

〒649-7113 和歌山県伊都郡かつらぎ町妙寺 219 TEL0736-22-0066 FAX0736-22-2579  
ホームページアドレス <http://www.wakayama-med.ac.jp/med/bun-in/index.html>

2018年1月発行



# あじさい



## 【掲載内容】

- ・年頭のご挨拶
- ・乾き目(ドライアイ)について
- ・脊椎ケアセンターの紹介
- ・リハビリテーション科の紹介
- ・外来診療医担当表
- ・はじめて外来診察を受ける方へ

## 脳ドックのご案内

当院の脳ドックではMRI・MRAを中心とした検査により、脳の病気の早期発見や脳卒中の原因となる要因(高血圧、糖尿病、脂質異常症など)の有無を診断します。

実施日:毎週水曜日 午前8時45分より  
申込み方法:電話にて「脳ドックの受診希望」とお伝えください

TEL: 0736-22-0066 ※完全予約制

当院脳神経外科の大岩美嗣准教授が日本脳卒中の外科学会から技術指導医の認定を受けました。  
脳血管の病気の診断を受けた患者さんのセカンドオピニオンや近隣の先生方からのご紹介など、これからも脳卒中の治療について何でもお気軽にお問い合わせください。



## 紀北健康講座・紀北健康出前講座

### 【紀北健康講座】

◆「ほんとは怖いくびの病気」  
脊椎ケアセンター 寺口真年助教  
平成30年1月30日(火) 16:30~17:30  
当院3階A会議室

◆「乾き目(ドライアイ)について」  
眼科 溝口晋学内助教  
平成30年2月23日(金) 16:00~17:00  
当院3階A会議室

### 【紀北健康出前講座】

◆「認知症について」  
認知症看護認定看護師 岸田悦子  
平成30年1月25日(木) 13:30~15:00  
九度山児童館

◆「ロコモを予防して、レッツ・アンチエイジング」  
脊椎ケアセンター 寺口真年助教  
平成30年2月14日(水) 13:30~15:00  
橋本市教育文化会館



クリスマス会(12月22日)



## ■ 年頭のご挨拶



分院長 川上 守

謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

新たな専門医制度が導入され、基本領域専門医として「総合診療」が組み込まれました。紀北分院は、この総合診療医を育てるための和歌山県立医科大学の機関として位置づけられています。総合診療医とは、「日常的に頻度が高く、幅広い領域の疾病と傷害等について、適切な初期対応と必要に応じた継続医療を全人的に提供する医師」として定義されています。昨年チーム医療を紀北分院の診療の柱として導入し、さまざまな疾病に対応できるように改革しております。十分な知識・経験を持ち、患者さんやご家族から信頼される医療を提供できる総合診療医の育成のためには、さまざまな疾病を有する患者さんをより多く診させていただく必要があります。心身に少しでも気になることがありましたら、紀北分院を受診・紹介していただくことで優秀な総合診療医を輩出できる施設になると確信しています。

私が担当している脊椎ケアセンターは、19領域の基本領域専門医に加えて習得できるサブスペシャリティ領域にある脊椎脊髄外科医の研修施設です。脊椎脊髄外科といっても、手術のみの他の脊椎センターとは全く異なる方針で診療を行ってきました。すなわち、「ケア」という名のもと、看護師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士、脊椎外科医等々からなるチームで患者さんを中心に診療にあたっています。今年度は、今までのわれわれの治療結果を米国整形外科学会、世界脊椎会議、国際腰痛学会(2020年の本学会会長に私が選出されています)、日本脊椎脊髄病学会・北米脊椎外科学会との合同会議などの海外での発表が多々予定されています。われわれチームの治療方針が正しいことを証明できる場と考えています。

さて、新年は戌年です。戌の干支の特徴として「勤勉で努力家」というのがあるようです。今年はさらに職員一丸となって、この「勤勉」、「努力」を合言葉に地域医療に貢献できる病院改革を行いたいと考えています。戌年が皆様にとってよりよい年なることを祈念しまして新年の挨拶とさせていただきます。

## ■ 乾き目(ドライアイ)について



眼科  
学内助教 溝口 晋  
専門分野 眼科全般

目がコロコロする、目がショボショボする、目が重たい、目がかすむ、目が疲れやすい、目が乾くといった症状を感じられたことはありませんか?それはもしかしたら「乾き目(ドライアイ)」の症状かもしれません。

私たちの目は普段、涙が目の表面を覆ってくれているので乾き目の症状を感じることはありません。しかし、涙の量が減ったり、涙が蒸発しやすくなると目の表面を涙が覆いきれなくなります。すると、先ほどの症状を感じるようになります。

乾き目は、年齢やストレスが原因になることもありますし、夏のエアコンや冬の空気が乾燥することでも乾き目は起きます。また、テレビやパソコン、スマホを見たり、読書をしたりすると、自然とまばたきの回数が減るのでそのことでも乾き目になります。

ここで簡単な乾き目のチェックをしてみましょう。今から10秒間まばたきを我慢してみてください。

1、2、3、4、5、6、7、8、9、10!

いかがでしたか? 10秒間まばたきを我慢できましたでしょうか。まばたきを我慢するのが難しかった方は、涙の量が減ったり、涙が蒸発しやすいために、もしかしたら乾き目になっているのかもしれません。

乾き目は目薬で症状を和らげることができます。目薬にもいくつかの種類があるので、お一人お一人の目の状態や症状に合った目薬での治療をすることが可能です。乾き目の症状でお困りの方は、ぜひ一度ご相談ください。



## ■ 脊椎ケアセンターの紹介



脊椎ケアセンター  
センター長 川上 守  
助 教 寺口 真年  
助 教 籠谷 良平

当院脊椎ケアセンターでは背骨の病気の治療を患者さん中心のケア(Patient-centered care, PCC)を提供することを目的として行っています。背骨の病気としては、くびでは脊髄症(せきずいしょう)といった手足のしびれや痛み、筋力低下、巧緻運動障害(こまかい作業ができなくなる)、歩行の障害、膀胱直腸障害(尿・便が出にくくなる、回数が多い)など多彩な症状が現れます。腰の病気としては、腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症(ようぶせきちゅうかんきょうさくしょう)、腰椎すべり症などが代表的で、あしのしびれや痛み、間欠跛行(歩いているとあしがしびれ、痛みが出る)などの症状が現れます。これらの病気を調べるためには、まずは専門医による診察、レントゲンそしてMRIなどが有用です。治療としては、すぐに手術というわけではなく、お薬やブロック注射、リハビリなどを行い、手術が必要な方は適切な時期に行うようにしています。当院では、くびや腰の手術を年間100例以上行っており、多様な手術に対応出来るように準備しています。

他にも高齢者が多いかつらぎ町では骨粗鬆症(骨が脆くなる病気)を有する方が多く、地域の医療機関と連携をした検査、治療が必要となっています。当院では骨粗鬆症認定医も在籍していますのでご相談ください。

最後に、Patient-centered careとは、患者さんを中心とした病院内の各部門(医師は脊椎外科専門医3名、看護師、理学・作業療法士、臨床心理士、事務など)で連携して患者さんの治療を行い、医療ケア全体の質の向上を目指しています。そのためには、病院全体が患者さんに寄り添い、真摯に治療に取り組んでいきたいと思っています。そして、背骨の病気を広く知って頂くために講演等も行っています。手足の痛み・しびれ、そして腰痛でお困りの方は、脊椎ケアセンターにお気軽に相談してください。

## ■ リハビリテーション科の紹介



リハビリテーション科  
病院教授 隅谷 政  
専門分野: 脊髄疾患、四肢切断、  
嚥下障害、義肢・装具

### ○ 診療内容

対象は、脊椎ケアセンターの対象である脊椎疾患をはじめとして、手足の疾患、脳・神経の疾患、心臓や肺といった内臓の疾患など多岐に亘ります。特に高齢者に対しては、疾患の治療だけでなく、全般的な運動機能や認知機能の低下を来たさないように配慮しています。

治療は、個々の状態に応じた運動療法、言語聴覚療法、嚥下療法などを行っており、患者さん自らが自主的に実行できるような指導も加えています。特徴は、十分な時間をかけて全身運動を行ってもらい、フィットネスをできる限り高めるように努めている点にあります。

当院では、疾患部位のみでなく「全身」を診ることによって身体機能の改善、日常生活能力の改善、社会復帰の支援、障害に対するプライマリケア、全身の医学管理を心掛けています。また、臓器や疾患の枠を越えた総合的な医療を提供して患者さんの健康を守る役目を果たしています。

### ○ 研究活動、教育活動、社会貢献など

腰痛など主に脊椎疾患に関するテーマで臨床研究を推進しています。数多くの実習生に対し患者さんを中心とした医療の重要性を教育しています。そして、紀北健康講座や紀北健康出前講座において地域住民に関心の深いテーマについて講演や実技指導を行い社会貢献に努めています。農山村地域に密着した大学病院リハビリテーション科のあり方を探求し、地域医療に貢献できる医療人の育成に力を注いでいきます。

## ■ 就業体験

和歌山県立笠田高校とかつらぎ町立笠田中学校の皆さんが、10月に当院で就業体験をしました。就業体験を通して、働くことや病院の仕事について理解を深めてもらいました。

